

特許業務を革新する「Summaria」の価値と賢い活用法

Summariaが現場にもたらす3つの主要価値

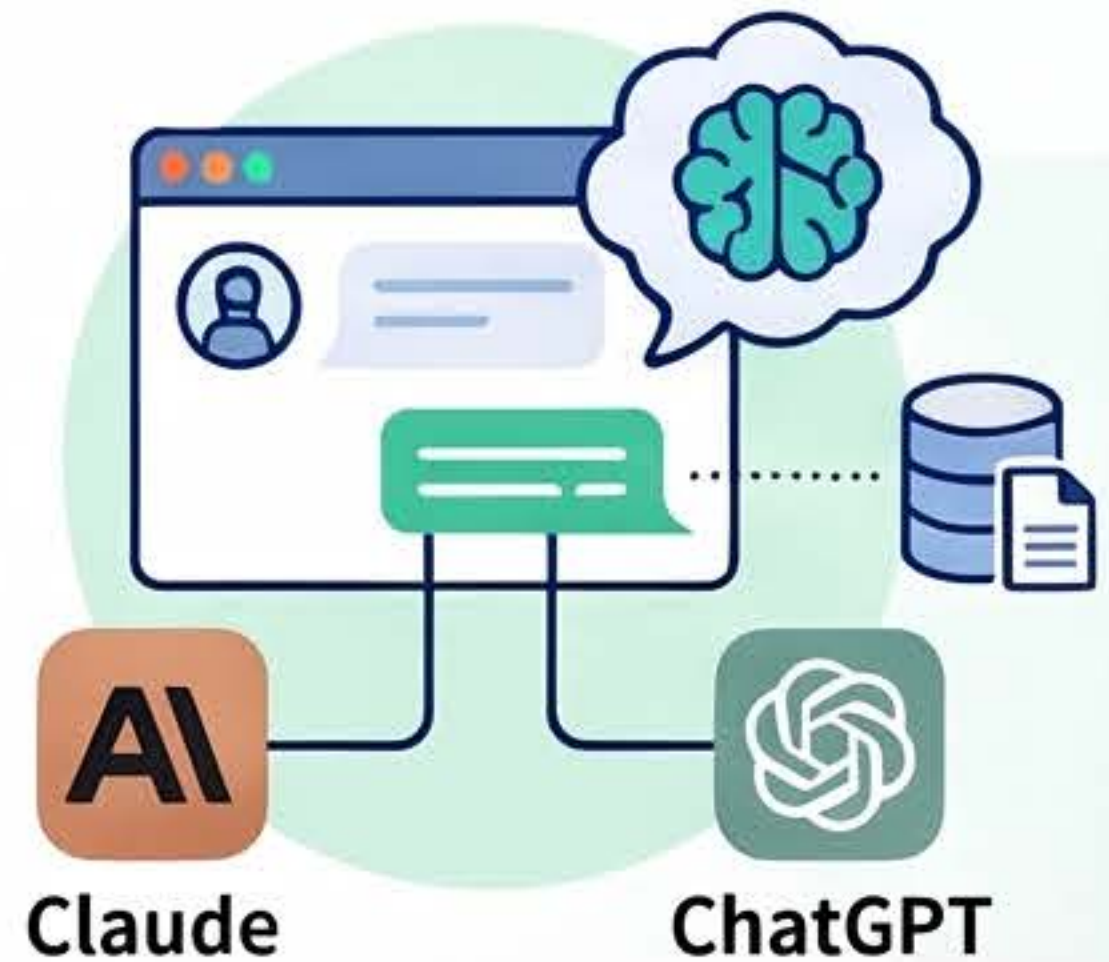


審査実務 (10万件の拒絶理由) に基づく検索語の拡張

審査官の認定関係を活用し、辞書では拾えない表現差による検索漏れを防止。

調査・評価・分類から権利化までの一元環境

検索結果の再整理や転記の手間を削減し、小規模組織でも業務前後をスムーズ接続。



MCP対応による汎用AI (Claude/ChatGPT等) 連携

普段使うAIの対話環境から特許データへアクセスし、探索や深掘りを効率化。

導入判断のための3週間の試行ロードマップ

第1週



既知案件による評価基準と調整時間の確認

過去の解決済み案件で検索式と出力を調整し、重要文献を拾えるか検証。

第2週



未知案件での再現性で見落とし率の検証
調整に使っていない別案件で試し、根拠
誘いやレビュー時間を客観評価。

第3週



一連の実務 (SDIや中間対応) を一巡
入力から最終確認までの総時間と修正量を
測り、継続利用の可否を判断。